しあわせ祈願の宮
本荘神社
由緒略記

本荘の地名

本荘は、本庄とも書き、金華山の西方、長良川・伊自良川両川の合流地点南東に位置します。地名の由来は、美濃国厚見郡平田荘（京都長講堂領荘園）の中心であったことに依るとの説が有力です。江戸時代には加納藩領で江戸後期には鳥屋村と改称しました。

明治二十三年には厚見郡本荘村となり、明治三十年稲葉郡本荘村、昭和六年に岐阜市と合併し順次新しい町名となり本荘の名は旧村の一部となり、今日に至っています。

本荘地区の神社

現在、岐阜県神社庁岐阜市支部本荘部会に所属する神社は、八社あります。

- ○本荘神社　敷島町九の二四
- ○熊野神社　本荘一九二六
- ○八幡神社　本荘二九五六
- ○八幡神社　鹿島町八の二五・二六
- ○阿賀多神社　南本荘一条通二〇
- ○稲荷神社　香蘭二ー九一
- ○神明神社　島田西町三
- ○神明神社　寿町七ー一五

神宮大麻暦頒布始祭

本荘部会では、例年十月最終日曜日に本荘地区内に頒布する「神宮大麻（伊勢神宮の御神札）暦頒布始祭」を斎行し、併せて地域の平安を祈願して各家庭に頒布活動を行っております。

八岐大蛇伝説と水害除けの信仰

素盞嗚尊の代表的な神話は「八岐大蛇伝説」です。

高天原を追われた素盞嗚尊は出雲国へ天降りますが、智恵と勇気で八岐大蛇を退治し、その尾から天叢雲剣という霊剣を得て天照大御神に献上します。この剣が後に皇室のレガリアとして歴代天皇に受け継がれました。

大蛇は水神の象徴で、「立派な剣を得た」との伝えは玉鋼の産地として名高い製鉄技術の掌握を意味します。すなわち、この神話は田をおかす大蛇を退治するという、製鉄技術を以て治水に努める農耕守護の性格をそこに物語っています。

岐阜市内の素盞嗚尊を祀る神社の位置関係を調べると、長良川に沿った本荘神社周辺に集中して祀られています。本荘の地は平田荘の荘園の中核と考えられ、出雲の地名も残り、人々の生活を守る水害除けの神さまとしての信仰を窺い知ることができるのです。

鱗餅（うろこもち）の由来

本荘神社のご祭神は素盞嗚尊（すさのをのみこと）です。

ご神体は「やたの鏡」と「剣」です。

その昔、素盞嗚尊が八岐大蛇（やまたのおろち）を退治された故事に因み、大昔から三里は、大蛇の頭、本荘は胴体、市橋は尾の形のそれぞれ「鱗餅」を作り奉納してきました。

この度、本荘神社のお供えしていました白の鏡餅を四切りにして、うろこ形に積み上げ、その上に鏡餅を飾ったと記した古い資料や、今でも四月の祭に供え続けている三里に行き、色々研究を重ね、古老の生きていた過去の祭礼に思いを馳せ、平成十八年の四月の例祭に復活し、以後保存会を結成し、毎年お供えしています。

夏越祭（たこしまい）（茅の輪くぐり）の由来

茅の輪くぐりは、『備後国風土記』（びんごのくにふどき）逸文の蘇民将来（そみしょうらい）の伝承に由来譚が記されています。旅の途次、一夜の宿を乞った祖神を手厚く迎えた蘇民将来のもとに後日、祖神が再訪し、疫病除（ゆういたん）けの呪符として「茅の輪」を授けました。その祖神は「われは素盞嗚尊なり」と名乗り、蘇民将来の子孫を疫病から救ったと伝えています。

当社では、平成二十年七月から茅の輪くぐりを中核行事として、巫女舞の奉納、子供会の行灯奉納や、ボランティアによる模擬店、合唱隊歌の奉納など地域の皆さんが参加し、楽しめる祭りとして行っています。

縁（えにし）を結ぶ
―しあわせ祈願の宮―

東の方位に「富士山」
西の方位に「出雲さん」（出雲大社）
南の方位に「お伊勢さん」（伊勢神宮）
北の方位に「白山」

宮中の儀式として「四方祭」があります。四方に鎮まる天神地祇の神々を祭して、一年間の豊作と悪病疫災を祈る儀式として今日も行われています。

古来、信仰の山として崇められてきた富士山、白山、由緒ある神々の伊勢神宮、出雲大社が位置する四つの方位の北緯が交わる素の位置に「百度参照」で本荘神社が記されています。

本荘の前の四方祭所で、四ヶ所が一度に会り出来ます。

感謝の気持ちを籠めて、本荘神社の素盞嗚尊（すさのをのみこと）さまを始め、四ヶ方の神々（えにし）を結ぶ、「しあわせ祈願」を致しましょう。

しあわせ祈願の宮　本荘神社